

1 中期的作成指標 マイルストーン管理

半期毎に、超えるべきハードルを設定
今の時期、何をすべきか、達成レベルはどこかを、常に意識する

2 コンスタントな取り組みを継続するための仕組み [指導→草稿提出→指導]のサイクル

忙しい社会人だからこそ、意識的に論文にかかる時間を捻出
学生—教員間で論文進捗の情報共有が途切れないことが重要

標準進度 1年次前半 1年次後半 2年次前半 2年次後半

マイルストーン
ステージ

1

プレ序論クラス

研究テーマを決定する
序論の執筆を開始する

2

序論・本論クラス

序論の完成・合格
本論部分の執筆開始

3

プレ結論・本論クラス

結論部分の骨子の構築
本論部分の全体像の形成

4

完成クラス

論文の完成
学内審査合格

到達目標

- 論文作成の心構え、基礎情報の把握
- 先行文献の収集・読み込み
- 自身の問題意識の明確化

前半3回の全体講義で、修士論文執筆の心構え、文献検索法やその読み解き方、論文テーマ選定指針等、まずは基礎情報をおさえます。第4回以降は、指導教員の下、先行文献の収集・読み込みを進めながら、毎回の課題や発表に主体的に取り組み、自身のテーマの早期決定を目指します。序論完成の準備期間となるこの時期、説得力ある序論執筆に向けて自身の問題意識を明確にしていきます。

プレ序論発表会

- 指導チーム決定
- 論文の対象と目的の確定
- 適切なリサーチクエスチョンの設定
- 論文構想(章・節)の具体化

開講前に主査をはじめとした指導チームが確定します。指導チーム内での報告・議論に基づいて各自の研究を進めていきます。最終的には、必要な要素(論文の対象・目的・問題提起・研究方法・論文構成・Wordの形式設定)を過不足なく満たし、担当教員全員が修士論文として成立可能と判断できる序論を作成することが求められます。序論合格後は順次本論部分の執筆に入ります。

序論合格

- 結論部分の妥当性
- 首尾一貫した論文デザインの構築
- 本論部分、全体構想の3分の2超の完成

序論の完成を前提に、本論・結論部分の執筆を進めていきます。半期終了後に行われる全体発表会「プレ結論発表会」を見据え、各自本論部分の執筆に精力的に取り組むと共に、指導教員が妥当と判断できる結論の構築に注力することが必要です。形式面では「プレ結論発表会」の時点で、ページ設定はじめ、表紙から参考文献一覧まで一連の体裁の整備が完了していることを目指します。

プレ結論発表会

- 論文全体における論理の一貫性・整合性
- 形式・内容の両面における基準のクリア

修士論文執筆の最終段階です。各自の研究内容を総括して、形式・内容の両面で基準を十分に満たし、最終審査に堪える水準の論文を完成させることを目指します。

学内最終審査

修士論文合格

指導体制

全体講義

ゼミ形式

主査決定

ゼミ形式

[指導(土曜or日曜)→草稿提出(水曜)→指導(土曜or日曜)の反復]

課外指導

アカデミック・ライティング基礎編

アカデミック・ライティング応用編